

## 第4回御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会 視察研修 報告書

※敬称略

1 日 時 平成30(2018)年10月19日(金) 11:00~17:30

2 視 察 先 神奈川県座間市

3 日 程 11:00 出発 御殿場市役所 本庁舎玄関前  
12:00 座間市役所 到着、会場内で昼食、休憩  
13:30 視察 座間市役所 市民部 市民協働課  
座間市民活動サポートセンター  
17:30 到着 御殿場市役所 本庁舎玄関前

4 参 加 者 15名

市民協働型まちづくり推進協議会委員 小高、高村、山本、川口(勇)、児島、小林、  
渡邊、川口(聡)、仁藤、勝又

御殿場市民活動支援センター 三改木、勝亦(悦)、川村

市民協働型まちづくりアドバイザー 吉澤 (※牛山教授代理)

市民協働課(事務局) 小長井

5 視察内容 (1)座間市 市民協働課 13:30~

対 応 : [座間市役所] 吉野部長、安部課長、雨田係長、黒沢  
[座間市市民協働推進会議] 小池会長

内 容 : ・座間市の市民協働について  
(相互提案型協働事業について、市民協働推進条例の制定について、  
市民活動団体と行政の継続的な関わりについて など)  
※事前に提出した質問事項等への回答を中心に

(2)座間市民活動サポートセンター 14:45~

対 応 : [座間市民活動サポートセンター] 小池センター長、渡部、山田

内 容 : ・施設の概要説明  
・市民活動サポートセンターの業務、事業について  
※事前に提出した質問事項等への回答を中心に

## 5 視察状況



## 6 感 想

### 〔小高委員〕

- ・協働事業の件数減は、御殿場も同じ問題を抱えていると感じる
- ・センター長の小池さんのモチベーションの高さに感心しました
- ・御殿場市民活動支援センターのHPももう少し団体が登録したくなるようなものに工夫してもらいたいです
- ・市民活動団体の横のつながりをつくる取り組みは、御殿場も積極的に実施してもらいたい
- ・文化会館のロビーで、文化会館で撮影したミュージシャンのPVが流れていた。御殿場はたくさんロケがされているのに、御殿場で撮影された作品をパブリックスペースで見る機会がない。自分が知っている場所がテレビで見られたらうれしいし、街を好きになるきっかけにもなるので、市役所やふじざくらなどで流してほしい

### 〔高村委員〕

御殿場はとても恵まれた環境にあることがよく分かりました。市民活動が活発に行われているし、各団体が協力して良いと思います。市民活動家の方たちもよく助けてくれます。他市のことも良い面が見えて楽しかったです。ありがとうございました。

市との協働のあり方がよくわからないけど、各団体が必要に応じて各課と上手に関わっていると思います。裾野や小山と違い、市民主導型で進んでいると思いますよ。

### 〔川口(勇)委員〕

座間市役所(市民協働課)と市民活動サポートセンターが隣接していて利用しやすい環境にあること、また、事前に資料の配布をいただき、質問事項等についての回答説明もよく理解できた。

事業費の計上については、提案団体に仕分けの説明、理解度が不十分なように感じ、当市の方が徹底できているように感じました。

事業終了後の関わりについて、提案の段階で継続的な取り組みについての仕組みの説明項目を加えたらどうでしょうか。

### 〔児島委員〕

市民活動サポートセンターの活動状況が、御殿場市民活動支援センターの参考になると思いました。

(1)市民や市民団体のレベルに合わせた支援の積み重ね

(2)サポートセンターのスタッフ自体の意識共有とスキルアップ

※市民と市民団体の相談に対して、対応するスタッフで差が出ないように、誰でも同じ支援ができるように努力されていると感じました

(3)サポートセンターのコピー機等の利用代金をプールしておいて、センター独自の財源として市民団体に助成している制度は、御殿場市でも取り入れられないかと思いました。

〔渡邊会長〕

座間市は、協働事業の提案が少ない気がしましたが、そのことをあまり問題視していないようでした。協働を意識した市民活動を支援するセンターの存在が、市民協働の促進に大きな力を発揮しているのでしょう。センター長の確固たる意志が、センター運営に多大な影響及び効果をもたらしているように思います。

御殿場市も今後、団体に支援センターを活用してもらい、情報交換がしやすい環境づくりをすること、そして、市民協働課の負担を軽減していくことも大切だと思います。

〔仁藤委員〕

行政と市民活動団体の間に市民活動サポートセンターという団体があることで、市民活動を活発化させ、行政だけでは行き届かない幅広い分野において、細やかなまちづくりを行っていくことができ、市民と協働をしていくうえで、市民活動サポートセンターの重要性がよく分かった。

また、市民活動サポートセンターの役割として、市のまちづくりがより活性化していくためには、市民団体を運用面、財政面で支援していくこと、そして数多くある市民団体同士が連携し活動の幅を広げられるように情報交換の機会を提供することが重要であるということ、改めて認識できた。

今後、当市の市民活動サポートセンターの状況を把握し、今回の視察において生かせるところを見極めていきたい。

〔市民活動支援センター 三改木事務局長〕

《印象的だったこと》

- ・協働意識を高めるために、部長以上に対しては協働に長けた外部講師による研修を、10年未満の職員には取っ掛かりになる研修を、全庁的に幅広く行っていること（昨年市役所で行った研修時、行政の意識や認識の低さに驚いたので）
- ・社会福祉部門の建物に市民活動部門が入っているのはおかしいから別棟にしたこと（「市民活動とは」という認識を深く理解し考えていると思った）
- ・市民活動サポートセンターとして、社会貢献活動をしていない団体は市民活動ではないので、生涯学習など自分のための活動団体には登録を取りやめてもらったこと（市民活動を支援する、という的確さを感じた）
- ・スタッフ全員の意識共有とスキルアップの勉強会を常に行っていること（誰が対応しても同じ回答と対応でなければならず、「それに関しては〇〇さんがいる時に。」というのでは困る。センターとしてはいけないこと）
- ・市民団体はピンキリで、NPO 法人になれそうなレベルだと思っていた団体が、実際は会則もない、書類作成もできない場合もある。能力がないのではなく、やり方が分からないだけのことが多い。そのレベルに合わせた支援を積み重ねていくことが、団体のスキルアップにつながる（まさにそのような支援をしていきたいと思う）
- ・市民活動サポートセンター代表のお話は、自己の行動の反省と、意識改革というか妥協してはいけない向上心を持てた。やっていることも考え方もとても参考になりありがたかった。

〔市民活動支援センター 勝亦(悦)〕

座間市は、人口とそれに対する市民活動団体の数が御殿場と似ていて、協働事業に手を挙げるような大きな団体が事業を終了し、年々減ってきているなど、同じような状況なので、参考にしやすいと感じました。書類のみの一次審査があり、自分たちの事業が協働事業の対象になるのかわからないような団体もチャレンジしやすい環境だと感じました。

座間市民活動サポートセンターでは、学ぶことがたくさんありました。市民活動団体が気軽に相談できる環境があり、誰が、いつ来て、どのスタッフに相談しても同じ答えがもらえるように、スタッフ間での勉強会を密にしているとのことで、最近御殿場ではあまり相談に来る方がおらず、小さなことでも相談できるような雰囲気作りを心掛け、積極的に声をかけていきたいのと、自分自身のレベルアップを常に心がけたいと思います。

また、雑収入を利用し、市民活動団体に助成をし、小さな団体の基盤強化に利用してもらっているとのことで、理事長の団体を思う気持ちに感銘を受けました。

今回の研修で感じたことを、自分でできることから取り組んでいきたいと思います。

〔市民活動支援センター 川村〕

①センター長小池氏のお話の中で、市民団体、ボランティアがいずれはNPO法人団体になれるように、少しずつレベルアップに繋がられるサポートをしている、また、協働事業相談業務では、行政との協働事業提案を考えている団体へ、その活動が協働に適さない団体にアドバイスや相談を受けることで、1次審査の前の段階で行政に迷惑にならないようにする役割がサポートセンターでもあるなど、相談窓口となるべく当サポートセンター行政との連携体制が大切だと思いました。

②当センターでは行っていない取り組みは、団体の脆弱部分で金銭的に支援していることは、印刷機、ラミネート、センターのグッズ(イベントで売る)等の売上金をまちづくりにつながる市民団体へのコピー代の助成をしている。また、HPは元気365で作成していて、インターネット情報サイトの団体の情報入力サイト「ざまっと」に登録している団体自身が入力し、それ以外はセンター職員が入力・更新している、センター職員は承認作業(著作権侵害の場合を見つけたら削除)していることで、いち早く情報発信していると思いました。HPも見やすい分かりやすい。掲示板や書架、配架の見せ方等の工夫、センターの雰囲気も大変参考になりました。

〔市民協働課 小長井〕

行政が限界を抱える中、それを打破するのは住民やそこに関わる方々の意思であると改めて感じました。単純に補助金等の制度の枠にとらわれるのではなく、市民活動団体と行政との多様な関わり方、また、地域、企業、教育機関等を含めた主体間の繋がりを強化するための下地作りが、公共的な課題を解決し、よりよい地域づくりを進めていくために行政に求められることだと思います。